



竜のように、まちよ元気に舞い上げれ (えびす祭り 1月10日)

さかわ *Sakawa* **議会だより**

49
2012.2.1

発行 高知県佐川町議会

12月定例会

contents **目次**



おおたびの滝(ニツ野)

正副議長・常任委員会委員決まる 2

予算編成方針は(一般質問) 7~8

牧野生誕150年どう取り組む(一般質問) 10

危険箇所へ防犯灯設置を(あの質問のゆくえ) 16

みんなの笑顔があふれるまちに

力を合わせてがんばります

町民参加の

町政運営に努力



議長
永田 耕朗

寒冷の候、皆様にはますますご清栄のことと存じます。

日頃は町議会に對しまして格別のご指導、ご助言をいただき厚くお礼申し上げます。

昨年10月26日の臨時会におきまして引き続き議長に選任されました。改めて責任の重さを痛感いたしております。

さて、現在、国におきましては経済再生に向けた構造改革が進められようとしておりますが、地方自治体も長引く景気の低迷や少子高齢化社会の進展など、さまざまな課題に直面し、町づくりそ

のものが大きく変化してきております。

こうした厳しい環境を乗り越えて心の豊かさや日々の暮らしに喜びを実感できる町づくりを進めていくために町民の皆様と協働しながら新たな視点で佐川の歴史を学び、地域の力を発揮しなければなりません。

町議会といたしましてはも町民の皆さまの求める効率のよい行政を念頭に町執行部と互いの知恵を出し合いながら町民参加の町政運営に努力していく所存でありますので、一層のご支援・ご協力を心からお願い申し上げます。

安心・安全な

町づくりを進める

このたび、議員の皆様のご推挙により副議長に選任され、誠に光栄であると同時に、その職責の重大さを痛感し、決意を新たにしています。

昨年を振り返ってみますと、地震、台風などの災害の多い年でした。3月11日の東日本大地震は、想定外の大津波、また原発の事故を引き起こし、いまだに進まぬがれき処理や原発事故の処理、被災地の住民が元の生活に戻るめどさえ立たない大変な状況です。1日も早い復興を願っています。

国の政治も民主党政権に代わりましたが安定せず、次々と首相も代わり、今の野田政権も消費税増税問題など、さまざまな問題で国会解散の声も出る状況です。国の政治が安定しなければ、県や市町村にも少なからず影響が出てきます。

本町でも、限られた予算の中、町民の目線に合った事業を進め、産業の振興、安心・安全な町づくりを進めていかなければならないと思っています。



副議長
氏原 義幸

10月26日に臨時会が開かれ、正副議長や各常任委員会の委員長をはじめ、議会の新しい人事構成が決まりました。

議会運営委員会

議会の日程、議案や一般質問の取り扱いなど議会運営を円滑に行うために必要な事項や、議長からの諮問事項を審査します。

前列右より
○ 岡村 統正
◎ 徳弘 初男
松浦 隆起
後列右より
藤原 健祐
西村 清勇
片岡 勝一



◎委員長 ○副委員長

総務文教常任委員会

主に総務課、税務課、教育委員会などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。

前列右より
○ 西村 清勇
◎ 藤原 健祐
嶋崎 正彦
後列右より
氏原 義幸
坂本 貞雄
片岡 勝一
中村 卓司



◎委員長 ○副委員長

産業厚生常任委員会

主に産業建設課、国土調査課、健康福祉課、町民課、病院などの所管に関する事項、請願、陳情を調査・審査します。

前列右より
○ 松本 正人
◎ 岡村 統正
今橋 寿子
後列右より
永田 耕朗
松浦 隆起
徳弘 初男
森 正彦



◎委員長 ○副委員長

12月定例会で決まりました



平成23年度12月補正予算

(単位：万円)

会 計 名		補正額	補正後の額
一 般 会 計		1452	66億9767
特別会計	国民健康保険	1824	17億9953
	介護保険	87	16億2410

12月定例会は、12月6日より8日までの会期で開かれました。
平成23年度補正予算をはじめ、条例改正など議案7件、報告5件、諮問1件、意見書1件を審議し、採決の結果、賛成全員および賛成多数で全件可決しました。

報告案件

工事請負契約

の変更

平成22年度
霧生関公園（仮称）

建設（造成）工事

463万円の増額

既設石積水路を空石積から練ブロックに変更したこと、排水・用水取水目的による水中ポンプ運転が必要になったことによる増額。

当初設計より経済的設置箇所への変更により盛土数量減となったこと、国が費用負担することにより交通誘導員が減ったことによる減額。

町道路線の認定

虎杖野桂2号線

起点

字下姥ヶ懐丙1197-1

終点

字姥ヶ懐丙1170-2

（賛成全員）

人権擁護委員

横畠 安彦 氏

佐川町黒原

3836番地3

（賛成全員）

人 事

長者佐川線

起点

字保木山乙5270

終点

字土居ノ外乙1270-1

（賛成全員）



認定された、虎杖野桂2号線

12月 補正予算 ピックアップ

障害者

自立支援事業

590万円

居宅系サービスの利用者が増加したことによるもの。

更生医療事業

460万円

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害などの身体障害に対して、日常生活の回復などの可能性が認められる場合に支給される医療費の増加によるもの。

子宮頸がん等

ワクチン接種

緊急促進支援事業

579万円

子宮頸がん、ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの接種者が増加したことによるもの。

農道及び

用排水路事業

853万円

島田堰自動転倒ゲート油圧ポンプや室原地区ファブリダムの修繕を行うもの。

歴史まちづくり事業

647万円

歴史まちづくり事業の一環として、名教館を上町へ移転させることに伴い、移転先の用地購入費を追加するもの。



各地域で老朽化が進むファブリダム

平成23年

第4回臨時会

10月26日開会

人
事

固定資産

評価審査委員

藤本 尊史 氏

佐川町東組1860番地の1

(賛成全員)

意見書

国にももの申す

総理大臣をはじめ、
関係機関に意見書を提出

大規模自然災害に
対する防災対策な
ど、住民の安心・
安全を支える地方
整備局や事務所等
の出先機関の存続
を求める意見書

(提出者 岡村統正)

東日本大震災では、国や自治体の職員が懸命の救援にあたり、燃料確保やインフラの復旧、物流の復活、医療活動などを通じて被災者の生命を支えており、地域における国が果たすべき責任と役割の重要性が改めて明らかになった。しかし、政府は昨年、閣議決定した「アクション・プラン」に基づき、来年の通常国会に国の出先機関を原則廃止する法案を提出しようとしている。

政府においては、南海地震などの大規模地震への対策や、被災した場合の迅速な復旧・復興など、広域的かつ機動的な危機管理体制を確保するため、地方整備局及び事務所等の出先機関の廃止や移管を行わないこと。そして、国の出先機関を原則廃止する「アクション・プラン」などを再検証し、国と地方が協力し行政サービスを行っていくために、国と地方の責任と役割を再検討することを強く要望する。

(要旨)
(賛成12・反対1)

行政視察報告

佐川町議会は、9月27・28日に、主に議会の活性化と議会改革へ向けての研修を目的とした議員行政視察研修のため、13名の議員で奈良県平群町と京都府大山崎町を訪問した。

重要なことは町民から
信頼される議会になること

奈良県平群町

県でいち早く議会
基本条例を制定

視察研修の初日となる27日は、議会改革とその一つの核となる議会基本条例の制定などの研修を目的に、「議会基本条例」を奈良県で一番早く制定した奈良県平群町を訪問した。

研修では、平群町議会からは、議長、副議長をはじめ、議会運営委員長、議会改革特別委員会の委員長、副委員長に出席を頂き「議会基本条例」制定の過程と現状などについて説明を受けた。

「議会基本条例」は、議会の最高規範であり、憲法である。一方、条例を制定することにより、議員に義務も課せられることになる。しかし、条例を作ること自体が重要であり、そのことにより議会は変わり、変わらなければならなくなる。重要なことは町民から信頼される議会になることだ。

議会基本条例制定だけが
活性化ではない
京都府大山崎町



議会改革の取り組み状況を聞く（平群町議会）

視察研修の2日目は、京都府の大山崎町を訪問。町民から定数削減の請願が出されたことをきっかけに、平成22年2月に議会改革特別委員会を設置。大山崎町議会は、多くの議会が「議会基本条例」を議会改革の中心にしていることは立場を違えている。「議会基本条例」制定だけが、議会の活性化ではなく、委員会においてその時々タイムリーな事案を検討することにより、町民の負託に応え、活性化を図ろうとしている。議論を深めることにより議会の質を上げることが重要と考えている、とのことだった。

視察研修を終えて

視察研修を終えて、12月8日、議員全員協議会を開催し、今後、佐川町議会としても議会改革に向けて、積極的に取り組むことになり、今後、議員全員協議会の中で、検討していくことが、決定しました。町民の皆さんに信頼される議会へ。

町民の声、聞くべきだ

町長 努力していく

予算編成に必要なことは、編成方針の根底に町の将来像、ビジョンが必要であり、町民の民意に沿っているかどうかだ。町民の要望することは、なかなかやってもらえないが、町側がやるつもりです。

松浦 隆起 議員



することは多額の予算がかかっても行われていることの批判がある。大きな事業を行う場合は町民の声をしっかり聞く姿勢が非常に大事だ。
榎並谷町長 地域の皆さんが困っているという姿は、認識している。
住民の声をできるだけ拾い上げて行政に生かすよう努力していく。

7人が町政を問う
ここが聞きたい



新しくなった本町のホームページ

防災対策

ホームページの代理掲載 取り組むべきだ

総務課長 前向きに検討したい

東日本大震災の際、被災地の市町村のホームページが通信回線の破損やアクセスの急増により閲覧できない状態が続いた。これを機に、災害時に遠隔地の自治体にホームページを代理掲載してもらう仕組みが注目されており、災害時の情報発信に関する応援協定を締結する自治体が出てきている。本町も、災害時ににおける相互応援協定を結んでいる南部町と、代理掲載の協定を結ぶべきだ。
岡林総務課長 ホームページの代理掲載は役機能のまひに備える有効な手段の一つだ。相手方との相談が前提となるが、南部町や姉妹関係を結んでいる常呂がある北見市と協議の上、前向きに検討していきたい。

町立図書館

Web図書館、導入すべきだ

教育長 普及状況を注視していく



利用者増加へ、内容の充実が求められている

既存の書籍をデジタル化し、パソコンや電子書籍リーダーで読めるようにした電子書籍を貸し出すWeb図書館が、注目されている。
図書館の狭さが一番の懸案事項である本町でも、Web図書館を導入すべきだ。

川井教育長 町立図書館は、利用者の多岐にわたるニーズに対応できる資料の提供に努めていく観点から、まずは紙ベースの蔵書の充実を第一義としながら、今後の電子書籍の普及状況を注視していきたい。

5.57%減のしわ寄せは

産業建設課長 具体的段階ではない

24年度の事業は一般財源ベースで5・57%減ということだが、産業建設課では、どのような事業にしわ寄せがくるのか。また、事業評価を実施したというが、次年度予算へどう反映させるのか。

森 正彦 議員



渡辺産業建設課長 本年度事業を1件1件精査しており、来年度の内容については現在調整中であり、具体的にどれを下げるかという段階には至っていない。

岡林総務課長 事業評価は現在進行中であり、1月に行う予算査定という作業を通して反映させる。

あったかふれあいセンター

24年度実施するのか

健康福祉課長 予算措置を考えている

あったかふれあいセンター事業は、23年度で国の財源措置が終わるが、県は継続する考えた。本町は24年度実施するのか。

下川健康福祉課長 佐川町地域福祉計画に沿った地域福祉の拠点として位置づけ、予算措置を考えている。

防災対策

情報伝達網の整備必要

総務課長 情報把握は非常に重要

災害が起こったとき、最初に一番必要なものは情報だ。正確な情報をより早く収集して、的確に行動する必要がある。実際に役立つ情報網の整備を行い、情報の収集と伝達の訓練をすべきだ。

岡林総務課長 災害時の初動における情報把握が非常に重要であり、被災状況の人的、物的な状況の把握が非常に大事だ。行政だけではなく自主防災組織とか消防団の意見も聞いて訓練等も含め検討したい。

その他の質問

○ 佐川町新エネルギービジョンを見直すべきだ。



災害時に的確な情報の発信が求められる



岡村 統正 議員

災害時に孤立が考えられる、尾川の峰、黒岩の四ツ白、斗賀野の川ノ内、舟床など救急搬送に時間がかかる地区へ、防災ヘリ、ドクターヘリの臨時着陸場を設置すべきだ。

救急・災害対策

ヘリ臨時着陸場 設置すべきだ

町長 基本方針決め、取り組む

榎並谷町長 霧生関公園に設置予定の臨時着陸場でかなりのエリアに対応できると考える。

救急医療が不備のため命を落としたり、孤立することが考えられる地区へ優先的に設置を考えている。町民の方々の全体の合意が必要であり、議会でも議論していただき、町としての基本方針を決めて取り組んでいきたい。



臨時着陸場の早期の設置が待たれている

前回開催の経済効果は

パシフィックオープン

教育長 町内に178名が宿泊

24年3月、高知パシフィックウェーブソフトボールクラブによるオープン戦が開催される。どういった形で受け入れを考えているか。

前回開催期間中の宿泊などでの経済効果は。

川井教育長 前は、町内の旅館、ホテルに延べ178名が宿泊、選手、観客などの弁当などで売り上げが上昇した店舗もあった。

3月の開催は、町広報紙による日程のPRなど、昨年に引き続きできるだけの支援をしていく。

裁判

訴訟費用の合計は

副町長 判決出ている2件で450万円

榎並谷町政になつて何件の訴訟があり、その費用の合計は。また、その費用は町民の貴重な財産であり、金額が少なくても判決内容に基づき訴訟費用を請求すべきだ。していないのは職務怠慢の何ものでもない。

また、現在提訴されているものは。

西森副町長 損害賠償請求1件、違法公金支出返還請求1件で、ともに控訴棄却、上告棄却の判決が出ている。弁護士費用は損害賠償訴訟300万



昨年に引き続き開催されるオープン戦

円、公金返還訴訟150万円。

訴訟費用を徴収していないのは職務怠慢との指摘は耳が痛い。

岡林総務課長 行政事件の場合、弁護士費用は訴訟費用に該当しない。

現在2件の裁判が係争中で弁護士報酬として、着手の100万円、終了の100万円を補正で計上している。

その他の質問

○窓口の来庁者への気配り、ないのでは。

食育シンポの成果は

教育長 食と健康の意識高まった

10月22日、佐川町健康福祉センターかわせみで黒岩中学校と保護者、地域住民を対象にした親子料理教室、食育シンポジウムが行われたが、その成果とこれからの課題は何か。

今橋 寿子 議員



世界的シェフの技を学んだ子どもたち

川井教育長 わが国を代表する食の第一人者の方々が本町に一堂に会し、調理指導や講演をしていただいたことが大きな成果だ。また、食と健康に関する意識も高まった。

シンポジウムの参加者が80名と非常に少なく、今後、こういった催しを開催する際の広報の仕方を再度、検討していく。

佐川町総合計画

5年間の事業評価は

総務課長 十分されていないかった

第4次佐川町総合計画が策定され、今年で5年経過した。この間それぞれの事業評価をしていると思うが、その評価に対する今後の対策をどのように考えているのか。

岡林総務課長 今までに十分な進捗管理がされていなかったことの反省をもとに、現在、事務事業評価を行っている。榎並谷町長 総合計画に沿い、進んだものの、停滞しているものがあるが、これらを踏まえて、次の5年間は、これらをピシッと検討した形で取り組んでいきたい。

牧野富太郎生誕150年

どう取り組む

町長 職員一丸となり取り組む

牧野富太郎博士生誕150年を迎える今こそ、牧野博士の有形無形の宝物を、住民と行政が共有しながら本町の活性化に取り組んでいく必要があるが、どのように取り組むのか。

榎並谷町長 職員一丸となつて取り組み、後に続くような生誕150年記念事業にしていきたい。

西森副町長 生誕150年を迎え、教育委員会を中心に企画を練り上げており、各課を挙げて取り組んでいく。



牧野富太郎博士の花を、どう咲かせることができるか

その他の質問

○担当部局の業務内容変更の理由は。



坂本 貞雄 議員

TPPは全ての関税を撤廃し、国民生活に重大な影響が心配されるものである。野田首相は、交渉参加を表明した。町長は、先の議会で断固反対を表明したが、今後どう取り組むか。

環太平洋経済連携協定

公共事業への影響は

産業建設課長 地域内の経済疲弊が懸念

また、町の公共事業への影響をどう考えるか。
榎並谷町長 今後とも県の町村会、あるいは四国、全国の町村会として反対の意思表示は続けなければならない。
渡辺産業建設課長 入札において外国企業の拒否可能枠が大幅に引き下げられると、町の公共事業に外資の参入が予想され、地域内の経済疲弊が懸念される。



努力を続ける農業を守るのは政治の責任

住宅リフォーム助成事業

検討の結果は

産業建設課長 震災対応に重点をおく

須崎市で住宅リフォーム助成制度が実施され、中小業者の仕事の確保、大きな経済効果、安心・安全の家づくりができる、と歓迎されている。先の定例会において検討するとの答弁であったが、どうなったか。
渡辺産業建設課長 住宅リフォーム事業の効果は知っているが、予算の都合上、今は震災対応に重点をおき、木造住宅耐震改修費補助事業に、非木造の住宅も加えていきたい。

介護保険制度

時間短縮すべきでない

健康福祉課長 反対の方向で取り組む

介護保険の生活援助の基本的な提供時間を、60分から45分に短縮することが検討されている。これは、訪問介護の時間短縮であり、高齢者の命綱でもある訪問介護を奪いかねないばかりか、ホームヘルパーに過重な負担となると思われる。どう考えるか。



高齢者が安心できる介護を

下川健康福祉課長 本町では、在宅介護を中心としたいと考えており、時間短縮はすべきでない。
中山間地で高齢化率の高い市町村、そして県、直接関係する事業所に働きかけ、ともにこの制度について反対の方向で取り組みたい。

その他の質問

○年金改悪の町民への影響どう見るか。

維持管理の計画は

産業建設課長 決定していない

霧生関公園の工事は、いつ完成するのか。また、全体の工事総額とそのうち町負担はいくらか。完成後の維持管理は、どこがどのように行い、その経費はいくらに見積もっているか。

松本 正人 議員



渡辺産業建設課長 現在、計画変更に伴う開発行為変更申請を行っているところであり、完成は平成24年度以降となる。建設費は、約7億4千万円で、うち町負担分は約1億6千万円となる。維持管理の費用・方法は、決定していない。

佐川町民第2グラウンド

全体の工事費は

教育次長 約2億6千万円の見込み



いつ完成するのか、霧生関公園

整備中の佐川町民第2グラウンドは、どのようなものになるのか。また、全体の工事費と町負担分はいくらか。また、町道の拡幅工事が予定されていると聞いているが、住民からの要望が、町道を拡幅すればグラウンドが狭くなるが、どのような検討がされたか。この工事の予算はどのようにするのか。岩本教育次長 本年度の工事は駐車場の整備、トイレ、更衣室。来年度は防球ネット、転落防止フェンス、照明、多目的雨天練習場等の工事を行う。工事費は、約2億6千万円の見込みで、うち町負担分は2億1千万円。榎並谷町長 町道拡幅は、書類での要望はあがっていないが地元説明会の折に聞いたと記憶している。渡辺産業建設課長 グラウンドが狭くなる点は、担当レベルで協議している。予算は、現在国の交付金がつくかは未定。

防災無線



グラウンド整備に併せて拡幅が予定されている町道

各戸に受信機設置を

総務課長 難聴地域に設置検討

防災無線は肝心なときに聞こえない。各戸に受信機を設置すべきと思うが、予算はどれだけかかるか。

現在、この地域に対して個別受信機設置を検討しており、概算では約5千万円。1台約5万円だが、県からの補助が半額ある。

岡林総務課長 難聴地域を調査し、1422世帯が聞こえづらいか、全く聞こえないことがわかった。

その他の質問

○ 通学路の安全対策総点検を。

○ 県立高校入学定員の見直しは。



中村 卓司 議員

現状のソニアは林産業の低迷や不況の中で経済的に苦しくなり、十分に手当てのできないまま、最終段階を迎えている。固定資産税の未納や借入金、国、県からの補助金の返還など、どのように決着するつもりか。

ソニア解散

どう決着つける

町長 林産組合に譲渡する

榎並谷町長 ソニア取締役会で、仁淀川町林産組合に施設を無償譲渡すると決め、国からの補助金も譲渡に含めて、これから事務手続きに入る。また、JAからの借入金の精算が終わらない限り、ソニアの解散はできない。固定資産税については清算の前に3町で話し合う。



最終段階を迎えたソニア

柳瀬川改修

進捗状況は

産業建設課長 関係者の了解が一番

黒岩の水害対策は、河川改修と基盤整備を一緒に実施することが重要と考えるが、現状の進捗状況はどうか。
渡辺産業建設課長 県土木事務所や越知町産業建設課、水害対策推進住民会議の役員と意見交換を行っている。当面は現法線のままで河床幅を広げる計画を要望していく。今後は、関係者、地権者の了解が得られるかどうかが一番の課題だ。

道の駅

町長の考えは

町長 基本構想立て、踏み出したい

本町には、地場産業の発展につながるものが数多くある。その核として道の駅が必要ではないか。道の駅に対する取り組みについて、町長の考えはどうか。
榎並谷町長 現在、道の駅は、全国的には、いつかのように繁盛している状況ではなく、社会状況の変化もある。また、国の補助もない。まずは将来に向けた基本構想をきちんと立てて、

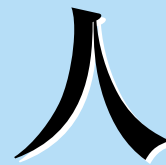
その他の質問
○イノシシ対策の取り組みは十分か。

それから一步踏み出した。構想をきちんとすれば、実現性はかなり高く、これを生かした地域づくりの可能性も秘めていると思っている。



農地を守るためには住民の協力も不可欠

わがまち



四ツ白の太刀踊

—もう随分長く踊りに携わっているようですね。

そうです。16歳のときに始めましたから60年近くになります。

—小学校の子どもに踊りを教えているのが。

大人だけで踊っていましたが、皆、年をとってきて子どもにも踊ってもらったらよいということになり、小学校の協力も得て教えています。

—いつ頃から教えていますか。

5年ぐらい前から教えています。子どもが奉納踊りに参加したのは2年前からです。

—子どもに教えるのはどうですか。

一生懸命に練習するし、覚えるのも早いです。

それと、子どもに教えるのは楽しいですよ。こっちが楽しみにしています。

—子どもに踊ってもらって何か変化がありましたか。

子どもが10人加わり、活気が出てきましたし、にぎやかになりました。

—それはよかったですね。先が明るい。

そうです。踊り子が減ってさびしく不安でしたが、今は、もう安心ですね。

—最後にこれからの抱負をお聞かせ下さい。

子どもたちが踊ったことの誇りを胸に成長してもらい、将来は後継者として踊りを守ってもらえたらうれしいですね。

ありがとうございます。県指定の無形文化財の太刀踊を継承する道筋をつけることができた安心感とゆとりを感じるお話しでした。これからも地域のために元気に頑張ってください。ご活躍を期待しています。

あなたの周りに、人知れず「佐川のまち」の元気のために活躍されている「人」をぜひ、ご紹介下さい。ご連絡は議会事務局まで。



大川 寅次郎 さん



次の世代に伝承されていく太刀踊



♡佐川に恋して♡

佐川町へのラブレター

■佐川町のどんなところが好きですか。

人が温かいところですね。以前、大阪で働いていたんですが、佐川町に帰ってきて、すぐ落ち着きました。

■趣味は何ですか。

今年から、スノーボードを始めています。

■どんなタイプの男性が好きですか。

一緒にいて、楽しい人がいいですね。

■この仕事を選んだ理由はなんですか。

佐川町が大好きで、とにかく佐川町で働きたいと思ったからです。

■仕事は楽しいですか。

いろいろな町民の方との出会いがあって、とても楽しいです。

これからも大好きな佐川町のために、がんばってください。



たけうち ゆきえ
竹内 幸愛 さん
国土調査課 臨時職員 (芝ノ防)

牧野富太郎博士 生誕150年

佐川町が生んだ 世界的植物学者

—この1年を牧野富太郎博士の年に—



数多くの偉人を輩出してきた佐川町において、ひととき光彩を放っている偉人こそが牧野富太郎博士だ。その牧野博士が、佐川町の郷土に誕生して、150年の佳節をこの4月24日に迎える。

牧野富太郎博士は、1862年4月24日に本町の西町に、造り酒屋の一人息子として生まれ、名教館で学んだ。

その後、植物分類学に生涯をささげ、「日本の植物学の父」と呼ばれるまでになった。

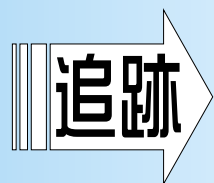
しかし、生まれた日が「植物学の日」ともされた佐川町が誇る偉大な植物学者である牧野博士を、本町は顕彰しきれていない面も少なくない。

本町は、坂本龍馬をはじめ維新関係の資料など貴重な資料を多く保存しながら、一昨年の「龍馬伝」による観光ブームのチャンスを生かしきれることはできなかった。

佐川町が生んだ世界的な植物学者である牧野富太郎博士を、町内外に大きく知らしめる絶好の機会である本年。

「牧野博士の年」にする取り組みが今度こそ、待たれている。





あれはどうなったが？



やっと実現、通学路の安全灯

危険箇所へ防犯灯設置を

(平成22年12月定例会)

通学路の危険箇所への防犯灯は再三要望を行ってきたが、いまだに設置されていない。通学路の安全灯として、危険箇所を指定し、新たな規則のもと、設置すべきだ。特に、死亡事故が発生した県道については早急に設置すべきだ。(松浦隆起議員)

<関連質問>

氏原議員、森議員、松本議員

町
答

長
弁

通学路に防犯灯を設置

23年9月に、斗賀野駅から花畑踏切までの間に3基、襟野々駅周辺から永野踏切までの間に4基の防犯灯を設置。教育集会所にも水銀灯1基を設置。

死亡事故発生の県道にはいまだ、設置されていない。

どう
なった

新年度での対応を検討

地域の受益者がいない通学路については、条例等を整備し、救済措置をどうするか、年度内に検討し、新年度で対応していくよう検討する。県道については、経過を見ながら対応したい。

あなたが選んだ議員の
仕事ぶりを見にきませんか？

次の定例会は3月6日午前9時開会
予定です。傍聴においでください。

あの質問のゆくえ

No.20

議会広報編集委員会

※わかりやすい紙面にと心がけています。
読後のご感想、ご意見をお寄せください。

委員長	岡村 純正
副委員長	坂本 貞雄
委員	松浦 隆起
委員	片岡 勝一
委員	森 正彦

昨年(2011年)は未曾有の大災害に襲われた年であった。被災地の皆さんが厳しい状況で新年を迎えたことを思うと心が痛む。さらに、今後の生活は大きな転換を迫られていることだろう。

一方、私たちは穏やかな新年を迎えられたことを感謝している。しかし、世界や日本の政治経済は大きな転換期に差しかわかっていると思われる。この大きな荒波は私たち地方にも必ず押し寄せてくるであろう。

この荒波から、わが町をどう守り、どう乗り切るか、それは佐川町総合計画にある、それぞれの底力を発揮することだろう。

私たち、町議会も困難な時代を町民の皆さまと共に考え、共に進めていくために議会改革への取り組みを始めた。

森

編集後記